

「東日本大震災 復旧から復興に向かって」

当社は、東日本大震災という未曾有の大災害にあたり、建設業界のリーディング・カンパニーとして果たすべき責任と役割を全うするべく、震災直後から様々な復旧支援に注力してまいりました。

基盤インフラ、生産施設など、東北・関東地方の被災各所において、顧客とともに“一日でも早い再生”を目指し、余震が続くなどの厳しい作業環境の中、協力会社を含めた当社の総合力をもって、幾多の困難を伴う応急復旧に迅速かつ精力的に対処してまいりました。

これまで当社が築き上げてきた顧客との強い信頼関係のもと、東北地方における陸の大動脈として地域経済を支える

「JR東日本東北新幹線」(写真右、右下)

や自動車製造工程の生命線とも言える部品生産ラインを有する「ルネサスエレクトロニクス那珂工場」を始めとして、東日本の広域に及んだ実に数多くの復旧工事を極めて短期間のうちに成し遂げてまいりました。



電架柱。被災直後（国見工区）



復旧完了した電架柱

震災発生から8ヵ月以上が経ち、発災直後から奔走した各所での応急復旧には一定の目途が付きつつあり、今後は本格的な復旧そして復興に向けた歩みを続けていくこととなります。

当社もその一端を担うべく、引き続き、これまで蓄積してきた豊富な技術力や人材を存分に活かしてまいりますが、復興への大きな足かせとなっている膨大な量に及ぶがれき処理について、このたび当社を代表企業とするJV（ジョイント・ベンチャー）が宮城県の石巻ブロック（石巻市、東松島市、女川町）における災害廃棄物処理業務を手掛けることとなりました。

この石巻ブロックには、宮城県内のおよそ半分にあたる数量の災害廃棄物が集中しており、文字通り最大規模となる当プロジェクトの遂行にあたっては、JVの代表企業として総合的なマネジメント能力が求められるほか、多岐に亘るがれきの再生資源化を含めた環境に対する十分な配慮が必要とされております。

かつてないスケールの災害廃棄物処理に取り組むこととなりますが、当社技術陣の英知を結集することにより、2年余りに及ぶ当プロジェクトを着実に推し進め、“東北再生”への確かな道標を印すことで、社会への貢献を果たしてまいりたいと考えております。

本格的な復旧そして復興には長い歳月を要することが予想されますが、当社の総力を挙げて積極的な支援活動を行うとともに、ゼネコンの最大の使命とも言える“安全で災害に強い国土づくり”を目指した技術力の向上に弛みなく努めてまいります。